

藤沢市都市交通計画の進行管理について

□藤沢市都市交通計画の進行管理

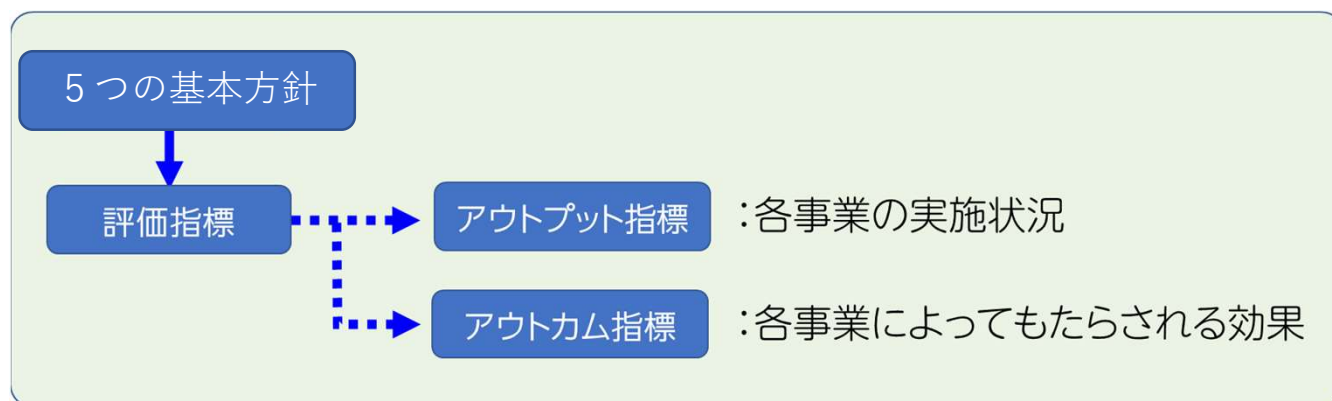
- 市民だれもが交通手段を自由に選択し、自家用車のみに依拠することのない移動の実現に向け、基本方針毎に評価指標を設け、各交通施策の効果を確認するとともに、達成度の検証を図る。
- 計画の評価・見直しの検討に関する協議は、市民、関係機関、学識経験者等と行政により構成される「藤沢市交通政策推進会議」において行う。



- 計画に基づく進行管理の初年度であることから、改めて進行管理方法の確認を行う。

□進行管理の考え方(基本方針編P110)

- 計画の推進に向けて、評価指標を設け、交通に関する市民意識調査などにより①各施策の進捗状況確認を行うとともに、②定期的(概ね5年ごと)に評価指標のモニタリングを実施しながら、各交通施策の効果を確認し、達成度の検証を図るPDCAサイクルを用いて行う。



PDCAサイクルのイメージ
(藤沢市都市交通計画:基本方針編P.110より)

参考：評価指標掲載ページ

- 基本方針編 P.111
- 実施計画編 P.41

Check 評価指標の確認

①各施策の進捗状況確認

- 計画に位置付けられた交通施策が予定通り実施されているか、「アウトプット指標」を用いて進捗状況を確認するもの。
- 進捗状況の把握は毎年度実施する。

②定期的(概ね5年ごと)な評価指標のモニタリング

- 基本方針毎に設定した「アウトカム指標」の達成状況を把握することで、実施した施策の効果検証を行うとともに、必要に応じて計画の見直しに繋げるもの。

Check 評価指標の確認

- (市) ①各施策の進捗状況確認
②定期的(概ね5年ごと)な評価指標のモニタリング



報告

(本会議) 評価・見直しの検討に関する協議

上記①、②に対し、上位計画の見直しや社会状況の変化などを加味して評価を行い、見直しの検討に関する協議を行う。



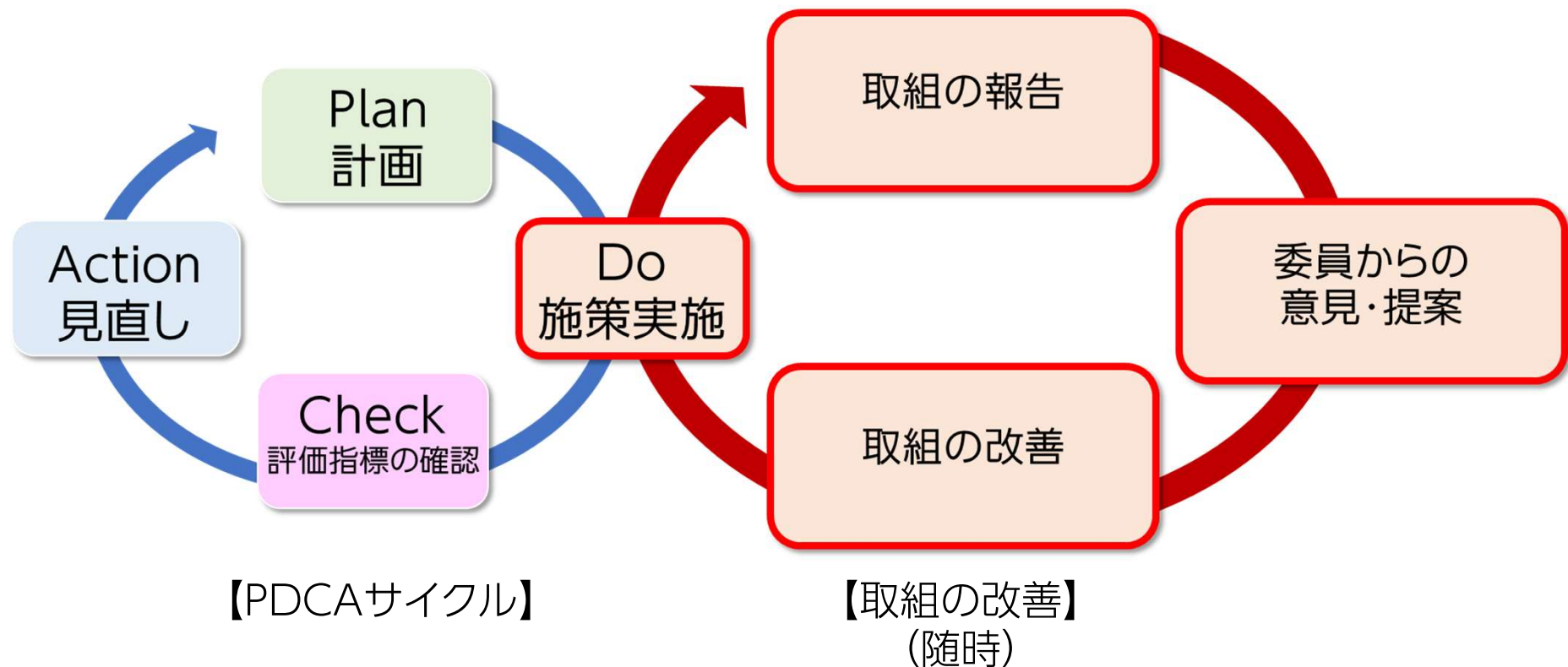
(市) 協議結果を踏まえ、見直しの必要性を判断する。



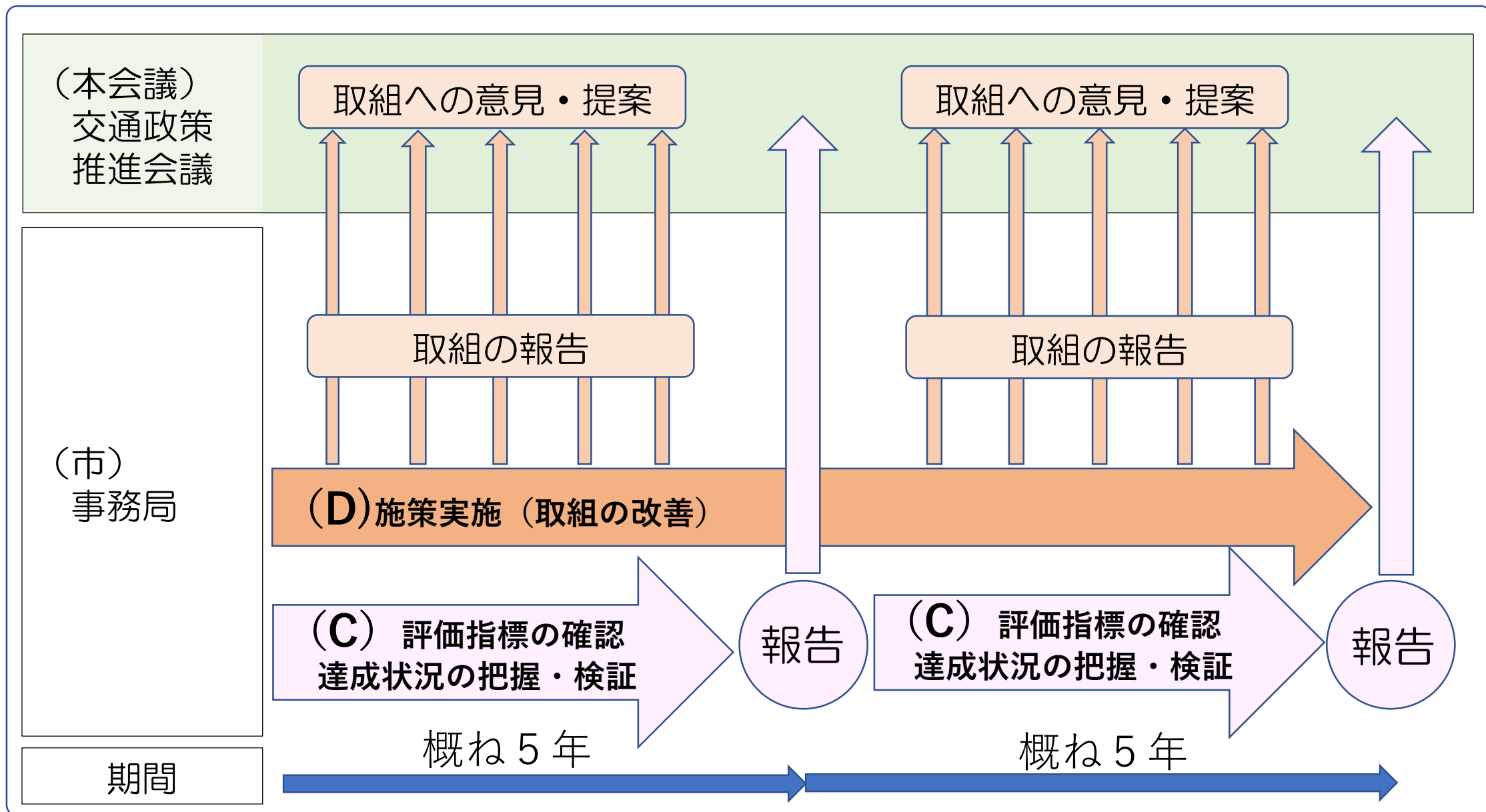
Action 見直し

Do 施策実施（取組の改善）

- PDCAサイクルのうち、「施策実施(D)」にあたり、将来交通像の実現に向けた効果的な取組を進めるため、様々な知見をもった委員で構成された「交通政策推進会議」において、計画の進行管理の一つとして取組の報告を行う。
- 施策の検討段階や実施の機会を捉え報告することで、各委員からの意見・提案を参考に、取組の改善を図る。



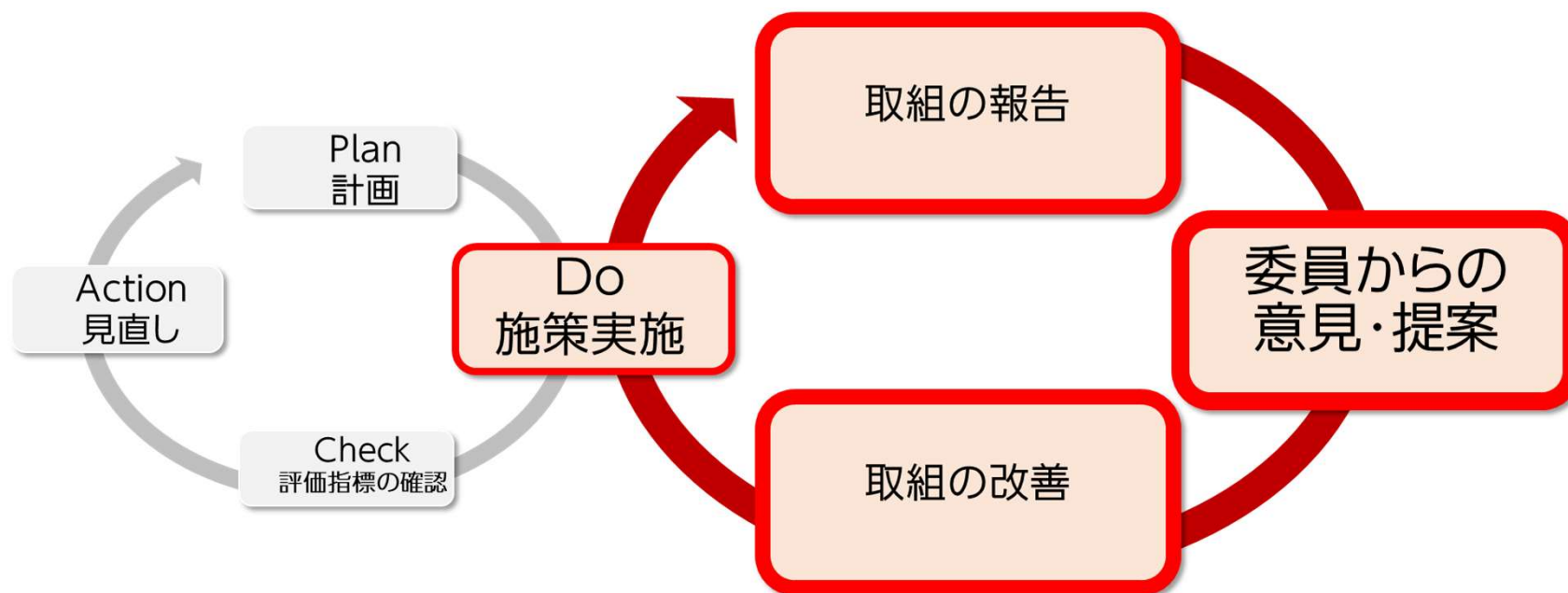
進行管理の流れと役割



Do 施策実施 (取組の改善)

○計画に基づく新たな取組や検討を進めている取組について

1. モビリティ・ハブの整備
2. 高齢者の外出促進に繋がる取組の検討



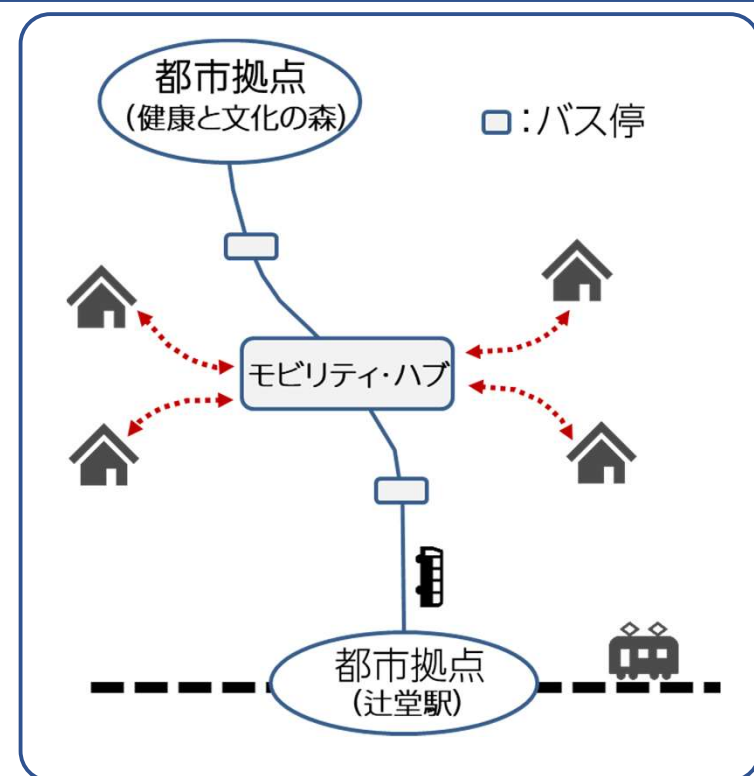
Do 施策実施

(取組の改善)

1. モビリティ・ハブの整備

主要なバス停における交通モードの接続・乗り換え拠点の創出を目的として、様々な交通モードの接続・乗換拠点であるモビリティ・ハブを整備

- 辻堂駅周辺と健康と文化の森を結ぶ南北軸（辻堂駅遠藤線）は、BRTが運行されるなど幹線交通が充実している。
- 沿線には市民センターや買い物ができる生活拠点が存在する。
- 地域の主要なバス停にモビリティ・ハブを設けることにより利便性の向上を図る。



期待される効果 ➡ 外出の促進・自家用車に依拠しない移動の実現・地域の利便性向上

Do 施策実施

(取組の改善)

1. モビリティ・ハブの整備

☐ 前回の会議でいただいた主な意見

- 施設を管理運営していく上での収入源の確保が必要。
- 魅力的な空間づくりに注視すべきでは。
- 必要な施設から整備する場所を考えるアプローチが必要。
- 情報発信の内容が大事。

☐ 取組の方向性

- モビリティ・ハブの整備を検討している湘南ライフタウンは、開発されてから50年以上が経過したニュータウンであり、少子高齢化やコミュニティ再形成などの課題を抱えている。
- 地域住民、事業者、行政等で構成される「湘南大庭の未来を考える会議」により、「まちの活性化」をテーマとした「湘南ライフタウン活性化指針」が策定され、先月、本市が提言を受けた。
- 「湘南ライフタウン活性化指針」では、取組方針のなかで、交通に関する事項を含む「まちの基盤維持・改善」が示されたほか、人々が交流できる場所の発掘や活用など、コミュニティづくりの方針が示されている。



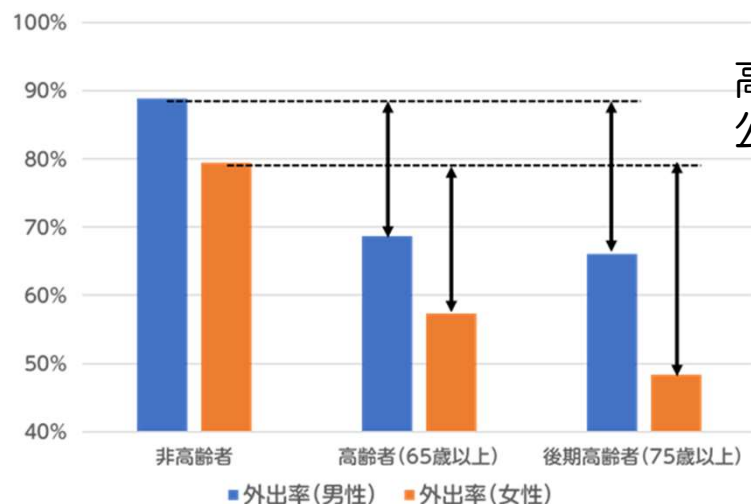
モビリティ・ハブが単なる交通施設ではなく、コミュニティの付加価値創造の一部となるように、地域と連携し検討していく。

Do 施策実施

(取組の改善)

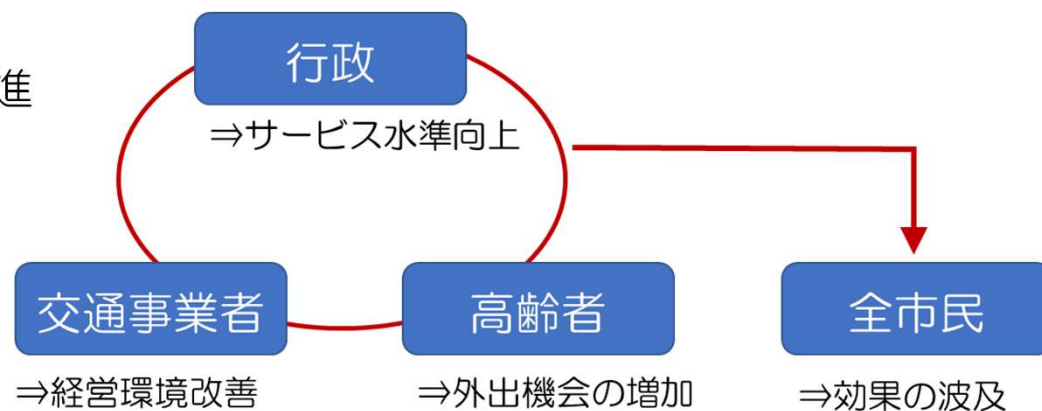
2. 高齢者の外出促進策の検討

外出率の低い高齢者世代の外出を促進し、社会参加の機会を増やすとともに、多くの世代の外出・移動を支える公共交通の維持・強化にも繋がる施策の検討を行う。



図：市内の高齢者と非高齢者の外出率

高齢者の外出促進
公共交通の利用促進



□課題

- ・ 施策の対象とする高齢者の年齢設定や、居住地による公共交通のサービス水準の差への対応など、公平性の確保について検討が必要。
- ・ 余暇活動など、人の健康・幸福に繋がる外出が促進される取組であるかなど、施策の効果が検証可能な手法での実施が必要。



交通事業者と連携しながら、幅広く施策の検討を進めて行く。